



校報 水 糸 者

No. 836

29年度・第9号

わからんときは おしえっこ

～昭和43年の種市小学校・教育実践集「もぐりの町で」より～

本校は、以前から先進的な教育実践はもちろん、不易の教育もしっかりと行う、教育実践校として位置付けられています。本校に勤務した多くの教員は、今までもそして現在も県内の各学校で教育実践家として、子どもの笑顔を追求しています。昭和43年に発刊された「もぐりの町で」という、本校の教育実践をまとめた冊子が残されています。

この冊子は、当時の種市小学校長の中村健三先生が当時の種市小学校の教育実践を冊子にしたものです。

この冊子は、昭和43年当時、種市小学校の全児童へ配られたものですので、私と同世代の方は懐かしいものだと思います。

この冊子の中に、「それをするのが掃除当番、あなたたちだ」(校報「水緒」711号で紹介済み)や「Sくんを見習いましょう」(校報「水緒」807号で紹介済み)も掲載されています。

この「もぐりの町で」は、次のような文で締めくくられています。

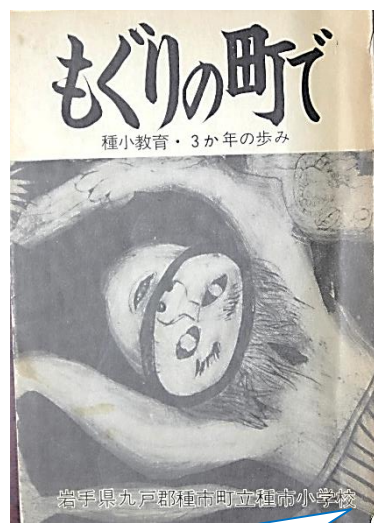
わからん時は、おしえっこ、
 うれしい時は、はしゃぎっこ
 困った時は、たすけっこ
 とうさん 南方で もぐりっこ
 かあさんわかめを とりあっこ
 わたしは弟を 子もりっこ

当時はこの「曲」もあったよ
 うに記憶していますが??

時代が変わろうが、世の中の価値観が変わろうが、教育の『不易』を教えてくれるすばらしいメッセージです。

そういえば、私が種小の2～3年生の時は、海外でもぐりをしたいたとうさんや海草を採り生業としていたかあさん、妹や弟の子守りのために欠席する同級生も、まだまだいました。

さらに、中村健三校長先生は「ともあれ、わたくしどもは、いわゆる、学力があっても人間(児童)のいない、きらびやかな教具があっても人間(教師)のいい教育はやりたくないし…(略)」とも記しています。



この表紙の版画(ドライポイント)は、当時3年生の横手誠一さんの作品です。

当時の種市小学校の先生方も、子どもをしっかりと見つめながら、子どもの笑顔と成長、幸せを願いながら、希望に満ち職務に専念していたことがよくわかります。

私たちは、今まで築き上げてきた教育財産をさらに増やしていく教育活動を「不易」と「流行」を忘れず失わずに、校歌にもある「ゆるがぬ姿勢」、「あやまらず進め」もキーワードとしながら、「チーム種小」で邁進して行きます。

わかる授業・楽しい授業をめざして

昨日、6年・新沼学級で体育科「器械運動」の授業を公開しました。その授業を本校の職員で参観し、より良い体育授業について学び合いました。

「器械運動」といえば、マットや鉄棒、跳び箱を使っての学習となり、保護者の皆さんの中にも「痛い」思い出や「できなくて恥ずかしかった」思い出を味わった方も多いかも知れませんね。今回の6年生は「友と共に、笑顔で」学習を進めていました。

体育科のイメージといえば、「体育しかできない子だ」、「脳みそも筋肉だ」等など、あまりよくないイメージが多いように感じられますが、『人生80年時代』を豊かに楽しく生きていくために、最も大切な教科であることは、昨年度の校報「水緒」715号（28.5.17発行）と812号（29.2.17発行）等でも記した通りです。〔本校のホームページには、まだ昨年度の校報もアップされていますので、ご覧になってください。〕



友と共に準備する事で、ルールーやマナーといった『社会性』を養えるのも「体育」の良さです。



身も心も『開放』させることができるのも「体育」の良さです。



非日常的な動きを行うことで、柔軟性や巧緻性、筋力なども養えるのも「体育」の良さです。



友と協力して、工夫した『場を設定』して、自分の課題解決に、友の励ましを得ながら取り組めるのも「体育」の良さです。

技のポイントを友に教え、上手になった事を友と共に喜び合えることができるのも「体育」の良さです。



体育は「できる」、「できない」がみんなの前でさらされる教科でもあるので、嫌いな教科に挙げる子ども達もいますが、今回の6年生の体育授業では「わからん時は、おしえっこ、うれしい時は、はしゃぎっこ、困った時は、たすけっこ」しながら、みんなが上達していく体育授業を参観し、うれしくなりました。

このような、授業を繰り返していく事で209名の種小っ子の笑顔が輝いていくのです。

祝 17日（月）も、209名 全員登校日でした！ 祝

これで、「全員登校日」が2日目。いいぞ、種小っ子！

P T A 総会の議案書を事前に配布します。22日のP T A 総会には忘れずに持ってきてください。